

私たちは信仰を告白して洗礼を受け、教会のメンバーに加わります。この箇所は洗礼式の中での問答の元になっている箇所です。異教の地ピリポ・カイザリヤでイエス様は弟子たちに質問されました。イエス様は「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」(15)と仰いました。そしてペテロが「あなたは、生ける神の御子キリストです。」(16)と答えました。イエス様は、このように告白することができたのは天の父の業であると言いました。(17)救いは私たちがつかんだものではありません。主が導き与えてくださったものです。私たちが救いに導かれるはるか以前から主は私たちの救いを計画し、信仰告白まで導いて下さいました。私たちは主のあわれみによって救いに与ることができたのです。

私たちの告白は、告白して洗礼受けたら終わりという一回きりのものではありません。毎週の礼拝で、また日常で告白し続けるものです。この告白はイエス様の他に私が従うべき神はいない。私が従うのはイエス様だけであるという告白でもあります。そしてこのお方を信じ、このお方のことばに従い続けるなら私たちは決して間違えることはない。みことばに従う時、祝福があるという確信でもあります。私たちの歩みを振り返ると、告白した通りに歩めていない現実が本当に多くあると反省させられます。従い続けることができるのだろうかと不安にもなります。でも主が私たちをこれまで導いて下さったように、責任を持って私たちを最後まで導いてくださいます。だから大丈夫、心配はいりません。救い主なるイエス様は一度私たちを救ったらアフターケアも抜群。その救いのわざをきちんと完成して下さる。私たちは救い主イエス様に信頼すればいいのです。

イエス様は、あなたがたは、そして「あなたは、わたしをだれだと言いますか。」と私たちに問われます。足りない私たち、弱い私たちですが、私たちはその主の御声に導かれ、養われ、鍛えられ、育まれながら、これからもイエス様こそが「私の主、私の神、私の救い主である」ということを告白させていただきたい。主が私たちを生涯、導いて下さることに確信を持って歩いていきたい。そして、どんな時も主に信頼し、その告白に立って、主のみことばに従い続けていくことができるようにと祈り求めていきたいと願います。